

## 父親の子育てへの自信の有無は、就労時間の長さと関係する

### 0歳児の子を持つ妻・夫の意識や生活を、妊娠期から継続調査 ～「妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査」報告～

株式会社ベネッセコーポレーションの社内シンクタンク「ベネッセ次世代育成研究所」では、子どもを持つ夫婦が、妊娠・出産・子育ての移行期をどのように乗り越えていくのかを調査するため、「第1回 妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査」を実施しましたので、結果をご報告いたします。

この調査は、2006年11月・2007年6月に妊娠期だった夫婦401組を対象に、子どもが1歳前になるまで、生活や意識がどのように変化したのかを追ったものです。

主な調査結果は、以下の通りです。

※詳細な調査結果(数値)は3ページ以降に掲載しています。

#### 【子育てへの自信は何から生まれるか】

##### ① 妻は、充実した出産体験が、子育てへの自信につながる。

妊娠期の運動や育児書を読むなどの出産に向けたさまざまな準備や、妊娠期の夫婦での協力などが充実した出産体験につながり、子育ての自信へとつながっていく。

##### ② 夫は、子どもが生まれた直後から、子どもに多く関わるほど、子育てへの自信が育まれていく。

##### ③ 夫が子育てに自信を持てるかどうかは、就業時間の長さに関係する。

1日の就業時間が11時間以上の夫(月間の残業時間が60時間程度\*1日8時間勤務の場合)、11時間未満の夫より、子育てに「自信がない」と答える割合が高い。子どもとの関わりが少ないため、子育てへの自信を築きにくいといえる。

#### 【子育て時期における妻・夫の意識】

##### ④ 夫の半数は「仕事が忙しすぎるので、子供と過ごす時間が少ない」と感じている。

また、子どもが病気の際には、妻が遅刻・早退・欠勤をするという場合が圧倒的に多い。

##### ⑤ 子育て生活で感じるストレスは、すべての項目にわたり、妻のほうが大きい。

「夜泣きがひどい」「住宅の間取りが悪く、家事や育児がしづらい」「自分のための時間を確保するのが難しい」など、調査を行った12項目すべてで、イライラ度は夫よりも妻のほうが高い。

##### ⑥ 妊娠期から0歳児期にかけて、妻の夫への愛情は、大きく減少する場合が多い。

妻の愛情が減少していないのは、夫が子育てに多く関わっている夫婦である。

「配偶者といると本当に愛していると実感する」と回答した妻は、妊娠期では71.3%、0歳児期では41.6%で、29.7ポイントの減少。夫は妊娠期73.6%、0歳児期61.8%で、11.8ポイントの減少で、妻のほうが減少幅は大きい。その中で、妻の愛情が低下してないのは、夫が家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている、夫の子育てへの参加度が高い夫婦である。

今回の調査からは、出産して大きく環境が変わり、妻が子育て生活でさまざまなストレスを感じている中で、夫は希望していても、仕事などの状況により、なかなか子育てに参加できていない状況があることが、浮き彫りに

なりました。今後の子育て支援施策を考えるにあたり、これまで以上に「家族の子育て支援」という視点で考える必要があるといえます。とくに夫の就労時間やワークライフバランスの問題が、子育てに与える影響は大きく、政府や企業などが一丸となって、引き続き取り組んでいくべき課題であるといえます。

### ■「妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査」 調査目的

- I. 妊娠・出産・子育ての移行期において、どのような体験が、妻・夫の子育てへの自信に影響するのかを把握する。
- II. 妊娠・出産・子育てを通して、実態や夫婦の意識の変化を把握する。
- III. I、IIの結果をもとに、子どもを産み、乳児(0歳児)を育てている夫婦にはどのようなサポート(出産時のスタッフや家族のサポートのあり方、父親のワークライフバランス等)が必要なのかを探る。

### ■「妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査」 調査概要

時期	フォローアップ調査 第1回：2006年11月・2007年6月 第2回：2007年11月・2008年6月
対象	妊娠期から2歳までの継続調査に同意した夫婦 401組
対象エリア	全国
調査方法	郵送法（一部 面接調査を実施）
調査・検討委員会メンバー	小林登（ベネッセ次世代育成研究所所長・東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長）/大日向雅美（恵泉女学園大学大学院教授）/榊原洋一（お茶の水女子大学大学院教授）/菅原ますみ（お茶の水女子大学大学院教授）/丸光恵（東京医科歯科大学准教授）/後藤憲子（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）
ワーキンググループ	菅原ますみ（お茶の水女子大学大学院教授）/酒井厚（山梨大学准教授）/松本聡子（お茶の水女子大学講師）/梅崎高行（九州ルーテル学院大学准教授）/高岡純子（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）/田村徳子（ベネッセ次世代育成研究所研究員）

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR部 担当:坂本、濱野、西沢、中島

電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301

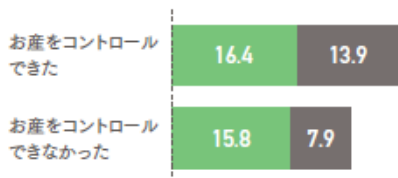
<添付資料> ■調査結果詳細データ

① 妻は、充実した出産体験が、子育てへの自信につながる。

- ・妻は、妊娠期の準備や夫婦での助け合いの経験が、充実した出産につながり、出産後の子育ての自信がついてくる。
- ・妊娠期の運動や育児書を読むなどの出産へのさまざまな準備や、妊娠期の夫婦での協力などが充実した出産につながる。

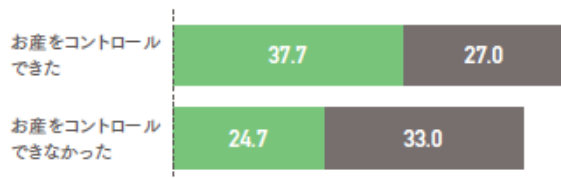
妊婦向けの運動（マタニティスイミングなど）  
をしている（妊娠期妻）

■しばしばある ■時々ある（0歳児期妻）（%）



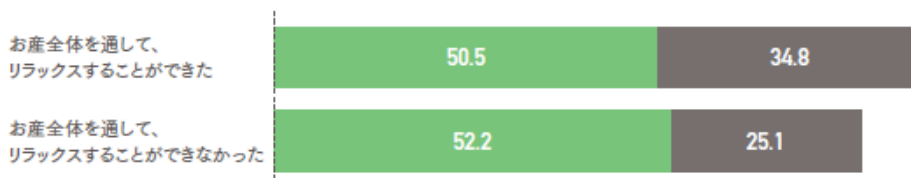
育児書を読むなど、子育て情報を  
集めている（妊娠期妻）

■しばしばある ■時々ある（0歳児期妻）（%）



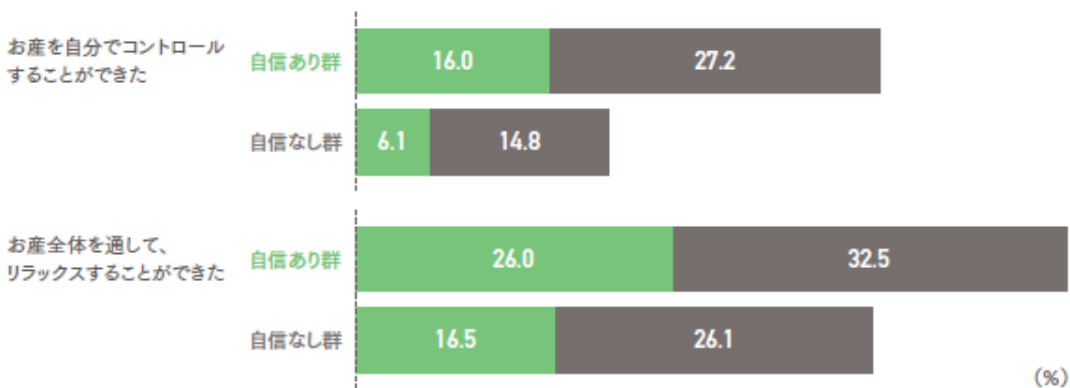
私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている（妊娠期妻）

■あてはまる ■まああてはまる（0歳児期妻）（%）



出産体験と子育ての自信（0歳児期妻）

■あてはまる ■まああてはまる



※自信あり群169人 自信なし群230人

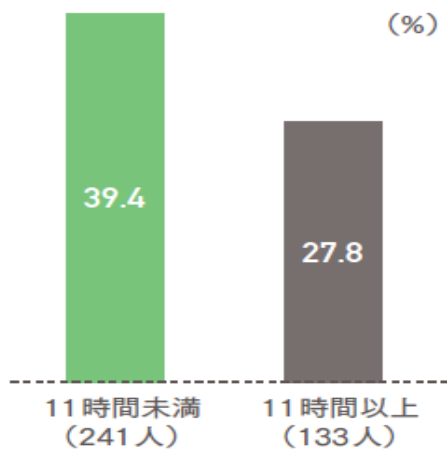
② 夫は、子どもが生まれた直後から、子どもに多く関わるほど、子育てへの自信が育まれていく。

③ 夫が子育てに自信を持てるかどうかは、就業時間の長さに関係する。

1日の就業時間が11時間以上の夫は、11時間未満の夫より、子育てに「自信がない」と答える割合が高い。子どもとの関わりが少ないため、子育てへの自信を築きにくいといえる。

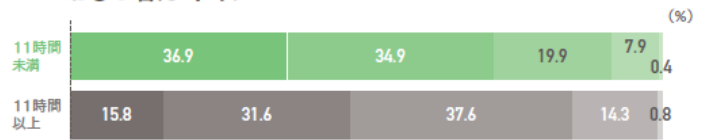
## 子育てに自信が 持てるようになった

(あてはまる+ややあてはまるの合計)

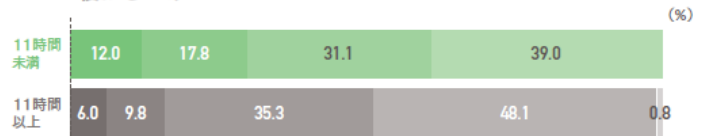


■ ほとんど毎日する ■ 週に3~5回する ■ 週に1~2回する ■ ほとんどしない ■ 無答不明

### おむつ替え・トイレ



### 図5-10 寝かしつけ



※0歳児期夫の1日の就業時間(通勤時間除く)

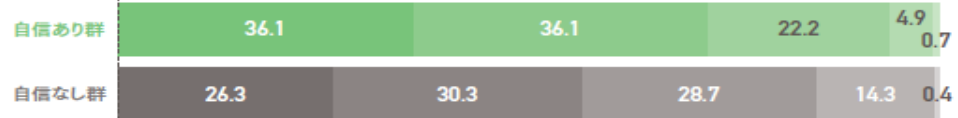
■ ほとんど毎日する ■ 週に3~5回する ■ 週に1~2回する ■ ほとんどしない ■ 無答不明  
※0歳児期夫 ※自信あり群144人 自信なし群251人

(%)

### 子どもと遊ぶ



### おむつ替え・ トイレ



### ぐずったとき、 落ち着かせる



- ④ 夫の半数は「仕事が忙しすぎるので、子供と過ごす時間が少ない」と感じている。  
また、子どもが病気の際には、妻が遅刻・早退・欠勤をするという場合が圧倒的に多い。

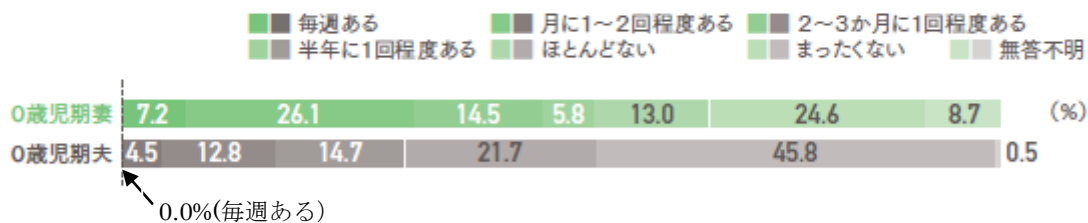
仕事を持っている妻・夫に「あなたは、子どもの病気などが原因で会社を休んだり、遅刻・早退をしたりしたことがありますか」という質問をしたところ、「毎週ある」「月に1~2回程度ある」「2~3カ月に1回程度ある」と回答した妻は、47.8%、夫は17.3%であった。「まったくない」と回答した割合は、妻が24.6%、夫が45.8%であった。

### Q. あなたの仕事や職場で、最近1か月の間にどのようなことを経験しましたか。

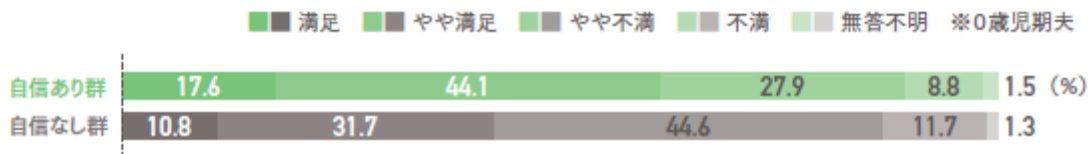
妊娠期夫 (%)		0歳児期夫 (%)	
1位	休日・休暇がとれない 23.9	仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ない	46.6
2位	上司とあわない 20.6	通勤に時間や体力をとられる	25.4
3位	自分の裁量で仕事を進めることができない 19.8	休日・休暇がとれない	20.4
4位	通勤に時間や体力をとられる 17.4	自分の裁量で仕事を進めることができない	20.2
5位	事業が不振である 16.8	上司とあわない	18.1
6位	自分の能力が正当に評価されない 15.3	子どもの病気などで急用が入ったとき、すぐに迎えにいけないことが多い	16.5

※複数回答 ※現在、仕事を持っていると回答した人のみ分析 ※17項目で、上位6位まで表示

### Q. あなたは、子どもの病気などが原因で会社を休んだり、遅刻・早退をしたりしたことがありますか。



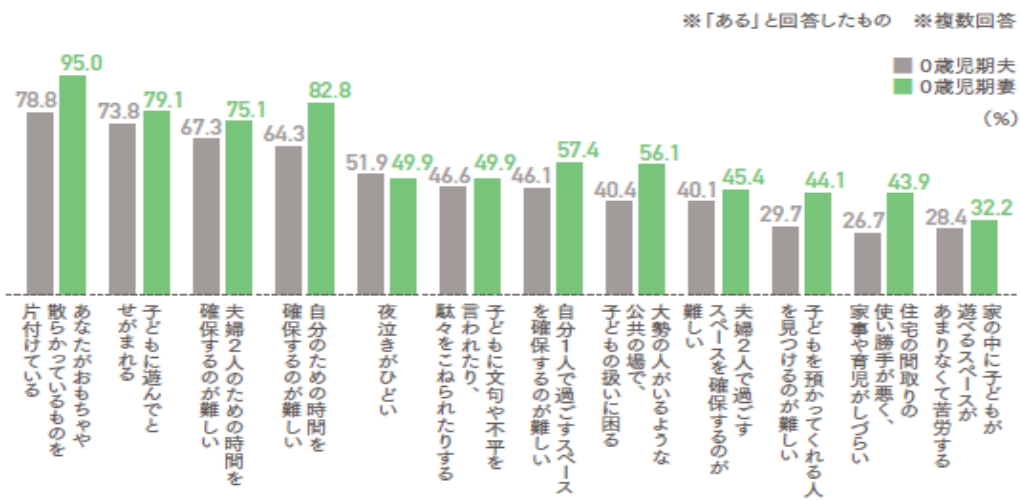
### Q. あなたは、仕事と家庭のバランスに満足していますか。



⑤ 子育て生活で感じるストレスは、すべての項目にわたり、妻のほうが大きい。

子育てに関することで、どのようなことにイライラを感じるかについて聞いたところ、妻・夫でイライラ度は異なっていた。「夜泣きがひどい」「住宅の間取りが悪く、家事や育児がしづらい」「自分のための時間を確保するのが難しい」などは、妻・夫ともにイライラを強く感じているが、12項目すべてで、イライラ度は夫よりも妻のほうが強く感じている。

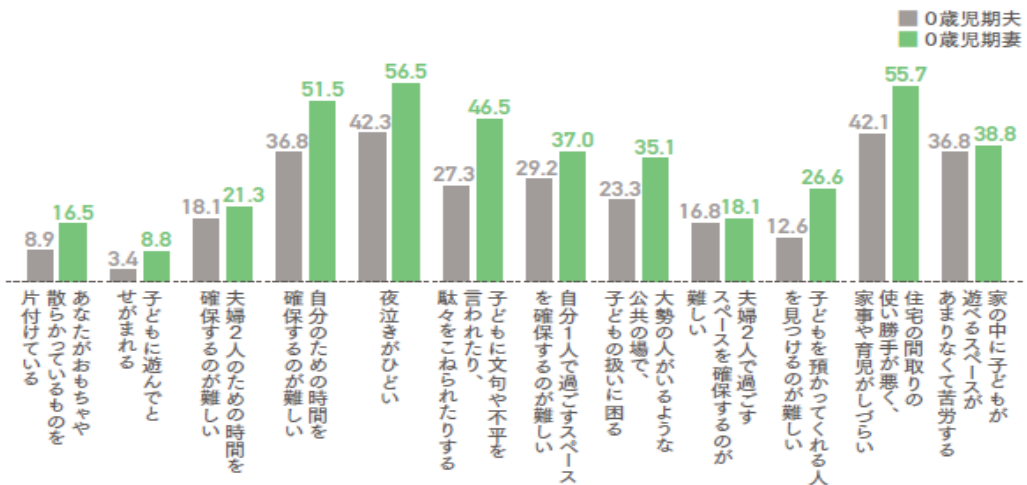
Q. あなたのご家庭の様子についてうかがいます (経験率)。



Q. あなたのご家庭の様子についてうかがいます (イライラ度)。

図2-2

※各項目で「経験がある」と答えた人のみ回答。  
※「非常にイライラする」「ややイライラする」の合計。

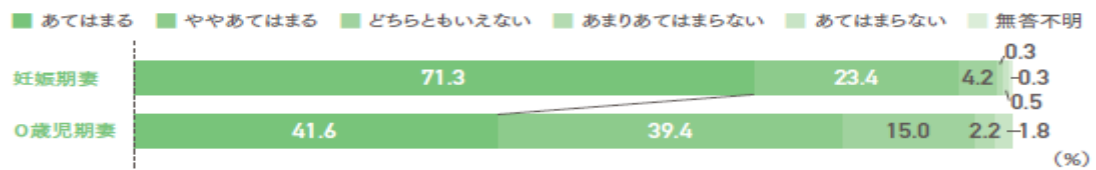


⑥ 妊娠期から0歳児期にかけて、妻の夫への愛情は、大きく減少する場合が多い。

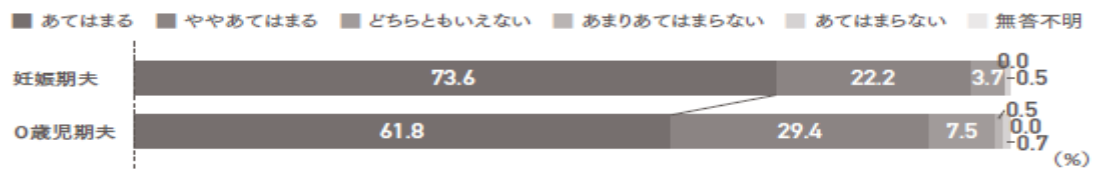
妻の愛情が減少していないのは、夫が子育てに多く関わっている夫婦である。

「配偶者といると本当に愛していると実感する」と回答した妻は、妊娠期では71.3%、0歳児期では41.6%で、29.7ポイントの減少。夫は妊娠期73.6%、0歳児期61.8%で、11.8ポイントの減少で、妻のほうが減少幅が大きい。その中で、妻の愛情が低下してないのは、夫が家族と一緒に過ごす時間を努力して作っている、子育てへの参加度が高い夫婦である。

Q. 私は、配偶者といると本当に愛していると実感する(妻)



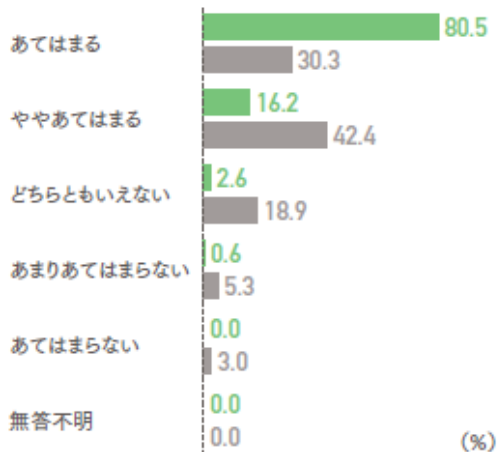
Q. 私は、配偶者といると本当に愛していると実感する(夫)



Q. あなたと配偶者のことについておうかがいします  
(妻・夫)「あてはまる」「ややあてはまる」の合計)。

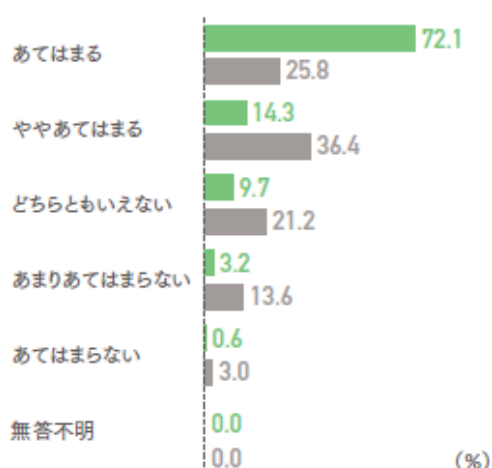
私の配偶者は家族と一緒に過ごす時間を  
努力して作っている(0歳児期妻)

■ 妻・愛情高維持群(154人) ■ 妻・愛情低下群(132人)



私の配偶者は私の仕事、家事、育児を  
よくねぎらってくれる(0歳児期妻)

■ 妻・愛情高維持群(154人) ■ 妻・愛情低下群(132人)



(注:データ解説)

妊娠中に「配偶者といると本当に愛していると実感する」で「あてはまる」と回答した妻(288人)を、0歳児期の回答により2つの群に分類した。

●妻・愛情高維持群(154人)=0歳児期にも「あてはまる」と回答した人

●妻・愛情低下群(132人)=0歳児期に「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した人

⑦ 子育ての相談相手や子どもを介した地域でのつきあいがある方が子育てに不安が少なく、自信を持っている。

子育ての相談をすることができる人や、子どものことを気にかけてくれる人を多く持つほうが、子育て不安が少なく、また自信を持っている割合が高くなっている。夫は、子育てを相談できる相手や地域での付き合いが妻よりも少ない傾向にある。また、横断調査の結果から、地域でのつきあいは、0歳が最も少なく、子どもの年齢が上がるに従って増えていく傾向にある。

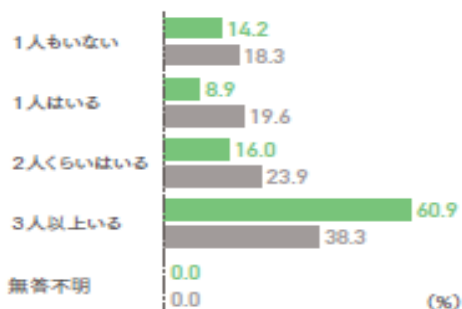


## Q. 地域の中で子どもを通じたお付き合いについて おうかがいします。(子育て自信あり・なし群別)

図2-5

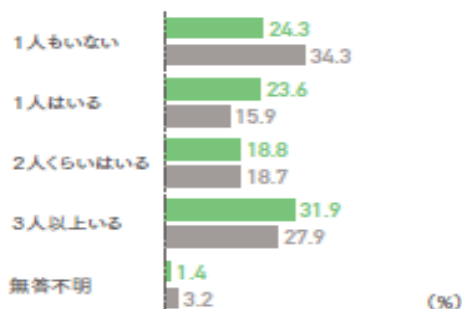
子どものことを気にかけて  
声をかけてくれる人(0歳児期妻)

■ 自信あり群(169人) ■ 自信なし群(230人)



子どものことを気にかけて  
声をかけてくれる人(0歳児期夫)

■ 自信あり群(144人) ■ 自信なし群(251人)

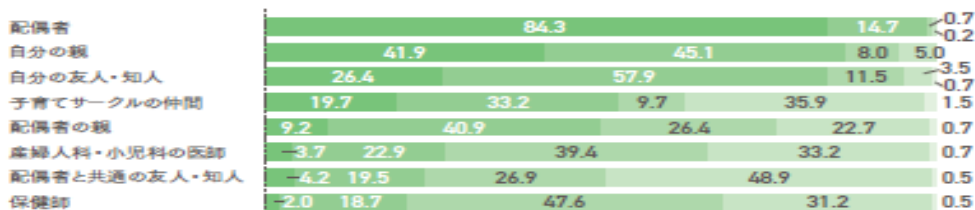


## Q. 子どもの妊娠・出産・子育てについて、相談したり、 話し合ったりしたことがある人は誰ですか。

図2-4

子育ての相談相手(0歳児期妻)

■ いつもしている ■ 時々している ■ 1~2回はしたことがある ■ したことはない ■ 無答不明 (%)



子育ての相談相手(0歳児期夫)

■ いつもしている ■ 時々している ■ 1~2回はしたことがある ■ したことはない ■ 無答不明 (%)

